

平成 29 年度前期アクティブ・ラーニング取組状況(その他の取り組み)

・ Finally, I think that when a student answer negatively to a question they should be asked why they feel that way. This would give us more information to be able to improve the situation.

(基礎英語)

・ 出席カードによる質問やコメント、要望などの把握と対応。

(家畜繁殖学実習 I)

・ 講義用にはハンドアウトを用意し、実習では実牛および屠場材料(牛蹄)を使用している

(牛削蹄実習)

・ 最新の情報を取り入れながら、現状で最新の畜産機械施設を学べるように授業を構成しています。

(畜産機械・施設学)

・ Moodleによる予習問題の提示、授業開始前の小テストを実施している。また、牛乳の官能検査から食の安全性について実践的に説明している。

(農業経済学)

・ この実習(1回)では、屠場材料(牛蹄)及び実牛を用い、学生を班に分けて削蹄の実際を体験させている。

(農場実習)

・ 講義ではハンドアウトを用意し、実習では屠場材料(牛蹄)および実牛を用い、少人数グループで削蹄実技を体験的に学ばせている。

(牛削蹄実習)

・ 全学農畜産実習の1回分のみ、農場の家畜防疫や衛生的搾乳について講義している。ハンドアウトを用意すると共に、場内見学させて理解を深めさせている。

(基礎学術ゼミナール)

・ 心肺蘇生・AED使用法についての授業を行っているが、一般救急救命講習終了証が発行できるよう検討したい。

(健康・スポーツコンディショニング)

・ 教員によるデモンストレーションと巡回して対話形式と実演による個別指導をしています。

(基礎学術ゼミナール)

・ There are two questions for the Vet students that need more explanation. The ones about how the course material related to the vet course needs a * that says *skip these questions because they don't relate to language courses. This would be true of other liberal arts courses as well. By the number of students who answered the questions it seems they didn't understand the current explanation. Finally, I think that when a student answer negatively to a question they should be asked why they feel that way. This would give us more information to be able to improve the situation.

(English I (Communication))

・毎時間、英語による口頭発表を課しています。2週間に一度の頻度で、ワークシートの完成・提出を求めています。ムードルによる自宅学習を実践させています。

(English III (CALL))

・学生の人数が少ないので、基本的にアクティビティも活発的になる

(スペイン語 III)

・参加時には、できるだけ、学生たちと一緒に活動をおこなうよう、心がけました。

(全学農畜産実習)

・分担授業(1回のみ)において、ハンドアウトを用意し、いくつかの事例に対して学生グループで協議させ、意見を発表させている。また、それぞれの意見に対して、教員からコメントを返している。

(農畜産科学概論 I (畜産学))

・3回の講義のあとに課するレポートは、自分で調べて自分で意見を述べる記述式にしています。学生たちの考えが、授業前と授業後により豊に変化し、そして今後大学生活が進むにつれてさらに専門性が付加できるように、他の授業との連動性を伝えていきたいと思います。

(家畜家禽論)

・授業アンケートの実施。レポートの提出。
・担当回の1週間前に講義資料をポータル上で履修学生に配布し、予習のための資料提供を行っている。

(農業と経済)

・分担1回の授業において、ハンドアウトを用意して理解を促すとともに、スライドで示した事例について、全員に対して意見を求めたり、挙手させたりしている。

(家畜生産と獣医学)

・覚えなければ話にならなり部分も多く、知識を詰め込まざる負えない部分はある。

(生物化学)

・Moodleによる予習問題の提示、小テストの実施。また、授業のテーマに沿って、時事問題に関するグループ学習とその報告を求めている。

(農業資源経済学)

・予習課題は、講義へのモチベーションと理解を助けるために有効であると考えられる。

(フードシステム学)

・現場を通してより分かりやすい授業を心がけています。

(環境保全型農畜産実習)

・授業中に質問に対する回答時間を設け、記入した内容を数名に発表してもらった。また、授業後のレポートや感想の記入等も求めている。

(国際農業開発協力論)

・獣医学ユニットの多くの教員が参加し、協力しながら実施している。

(帯広基礎獣医学演習)

・搾乳実習（全 38 回）について、模擬乳頭によるミルカー取り扱いの練習と実牛を用いた搾乳を少人数で体験的に学習させている。

（農畜産演習）

・実験を開始する前に関連する学術的背景の説明を行い、学生に質問をしている。実習の待ち時間には演習問題を課しグループ間の討論を促している。実習終了時に実験結果の報告と演習問題の解答を確認している。レポート作成では、実験結果から読み取れる考察に重点を置くように指導し、科学的な考察能力の育成を図っている。実験結果をプレゼンさせる実験結果報告会を設定しており、学生のプレゼン能力の向上を図っている（今年度の学生の 85%は意欲的に取り組んでいた）。

（生化学実習）

・ハンドアウトの配布、予習用の問題作成、実際に学生が顕微鏡観察し、巡回して質問を受ける。テストもあり。授業のはじめに、パワーポイントによる内容の説明。

（原虫病学・寄生虫病学実習）

・VetPortal に資料を掲載し、予習を促す。質問を受けている。ハンドアウトの配布。生徒を当てる。

（原虫病学）

・授業では、40 分程度の講義と 20 分程度のグループワーク、そして 30 分程度の発表を基本としている。また、毎回学生にまとめやすい文字数を決めさせたうえで、レポートを課し、メール添付で提出させて、翌

週までに詳細に添削して返却している。この中で、学生個別に学習指導を行っている。

（生産獣医療学実習）

・見学ではなく実際に手技を行うことを前提にしている。また、これに伴う弊害(怪我や感染)も存在するため、留意するように努めている。

（産業動物獣医療実習）

・人数が多いので半分づつ他の実習と裏表で 2 回に分けて行なっている。

（家畜生産科学実習 I）

・毎回、牛・施設・器械を用いた実習を行い、この時に学生を少人数グループに分け、学生同士で協議しながら実習に取り組ませている。また、レポートを課し、理解度を評価すると共に、内容についてコメントを付して返却している。

（家畜生産科学実習 III）

・学生のみなさんからの質問等を随時受け付けている。

・実習資料はポータルより配布し予習復習の支援を行っている。実験レポートの提出および採点後のコメントの送付もポータルを介して行っている。

（食品科学基礎実習 I）

・学生のみなさんからの質問等は随時受け付けています。

（酵素化学）

・学生のみなさんからの質問等は随時受け付けている。

(応用微生物学)

・Moodleで講義資料、関連動画などを学生に提供し、予習復習の支援を行っている。理解度を把握するために定期的に Moodle を用いた小テストを行っている。

(遺伝子工学)

・時間外の作業が多かったかもしれないが、学生は理解して実施してもらえたと思われる。

(農業経済学実習Ⅱ)

・プリントや実習手順等を工夫し、より分かりやすい実習を心がけています。

(農業システム工学実習)